報恩講の御案内

謹啓　〇〇の候　皆さまにおかれましては、愈々ご健勝のことと拝察し、お慶び申し上げます。平素は、〇〇寺の教化活動にひとかたならぬご厚情とご協力をたまわり、厚く御礼申し上げます。

　さて当院において、先の通り報恩講を勤修いたします。

　先達から、真宗門徒の生活は毎日が報恩講だと教えられていますが、我が身を振り返ってみれば恥ずかしいような日暮しです。仏恩報謝のお念仏といただきながら、身を粉にして報ずることも、骨をくだきて謝すこともかなわぬ身であります。

　宗祖親鷲聖人は、そういう身であればこそ「称名念仏はげむべし」と勧めてくださいました。そのお声はまさに仏さまの大悲のお心からの呼びかけです。自らの限りある命の事実を忘れず、どうにもならないこの身をお念仏とともに精一杯尽くすべく、皆さまとともに、今年の報恩講をお勤めしたいと思うことです。

　つきましては、万障お繰り合わせの上、ご家族連れにて御参詣くださいますよう、ご案内申し上げます。

合　掌

記

**日　時** 二〇二●（令和●）年〇〇月〇〇日（●）〜〇〇日（●）

〇〇日 午前九時より 晨朝・法話

引き続き 日中・法話

午後二時より 逮夜・法話

午後七時より 御伝鈔・法話

〇〇日 午前八時半より 晨朝・法話

引き続き 日中・法話

**御法話** 〇〇　〇〇　師（〇〇教区〇〇寺住職）

図形

低い精度で自動的に生成された説明なお、〇〇日の午前十一時半より御斎をご用意いたします。

以　上

御門徒各位

二〇二●年〇〇月

真宗大谷派（東本願寺）　〇〇山　〇〇寺

住　職 〇〇　〇〇

印